

会 議 記 録				
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会			会議場所 第3委員会室 担当職員 山内
日 時	平成27年5月29日(金)		開 議	午後1時30分
			閉 議	午後2時47分
出席委員	石野 田中 三上 小川 奥野 山本 木曾 堤			
執行機関出席者				
事務局	山内次長			
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名

会 議 の 概 要

13:30

1 開議

2 事務局日程説明

13:33

3 案件

行政視察の総括について

<石野委員長>

行政視察の総括について、視察項目ごとに順次、意見等を出していただくよう、よろしく願います。

(1) 小中一貫教育について(練馬区)

<三上委員>

小中一貫教育については、全国的な傾向として特殊なことをしようとする流れがあるが、練馬区ではそういう流れにのらず、特別のカリキュラムを組むことなく、小中の連携に重点を置かれている点がよかったと思うし、うまくやられているように感じた。

視察終了後に、教育部の担当者に何点かお聞きしたが、小中一貫校の大泉桜学園については、それなりに成果が求められるので、力を入れざるを得ない状況があるということであった。また、全国どこでも6・3制をくずして、4・3・2として、それぞれ1期、2期、3期とされているが、2期の子どもが荒れる傾向があり、困難・課題を抱えて指導が大変ということであった。良さもあるが当然に課題もあるし、連携となるとどうしても教職員の数も増やす等、表裏があることを心に留めておかなければならないと感じた。

<山本委員>

練馬区では、小中一貫教育について、施設一体型が1校あり、残りは施設分離型・連携型として教育を進められており、亀岡市と同様の状況であった。

小中一貫教育を進めることで、学力の向上、不登校児童・生徒の減少、中学生の落ち着きや自信につながる等の効果があると言われていた。中学生が小学生の学習を支援するリトルティーチャーの取り組みなど、小中連携型の中で様々な取り組みをされていることも聞かせてもらったので、本市でも参考にしていければと思う。

< 奥野委員 >

小中の連携について、練馬区では環境が整っていたが、亀岡では学校間が離れているので、交通のアクセスがネックになる。いじめがなくなったり、中学校に入ってから不安がなくなる等のメリットはある。

(2) 学校給食について (練馬区)

< 三上委員 >

学校給食について、本市にあてはめるのは難しい部分はあるが、早急にはできないにしても、現存する給食センターの老朽化の時が考える時期だと思う。練馬区では、学校給食の実施方式の自己評価で、経費面は「×」であるが、それ以外は食育面も含めてすべて「○」となっている自校調理方式を採用されていたが、これは住民サービスに対する行政の姿勢の問題である。亀岡市では財政的なこともあって、同じようにするのは困難であるが、早急に中学校給食を前向きに検討する時期にきている。強い市民ニーズを感じているので、ぜひ本市にも取り入れるようにしていきたい。

< 山本委員 >

給食センターが老朽化している時が、方向転換するチャンスかもしれない。

練馬区では、長い学校給食の歴史の中で、センター方式から自校方式、親子方式と検討を続けてこられており、本市においても市民の要望に応じて、中学校給食を検討する際の参考とすべきである。

< 田中副委員長 >

練馬区では食育推進委員会を設置し、食育推進計画を作成し、それに基づいて食育を推進されている。亀岡市においても、小中学校の食育をどう考えるのか、また、どう進めるのかという基本線をきっちり押さえて、明確にすべきであると強く感じた。

< 山本委員 >

練馬区では、学校教育の中で食育を重要視されていたが、本市においても、食育の面からも中学校給食を進めてもらいたい。

< 木曾委員 >

食育の関係については、学校の中で進めていくべきと感じた。

財政状況が違うので難しい面もあるが、中学校給食については、前向きに、子どもの貧困の問題をカバーするためにも大事なことになってくるのかなと思う。児童数の減少も踏まえながら、取り組んでいく必要がある。

< 奥野委員 >

中学校給食については、財政的な負担を伴うが、方向性としてはやっていく時期と考える。現在の施設で中学校の給食を取り込んでも、設備的には問題がないのではと思う。

< 堤委員 >

人口・面積等、条件面が違うところではあったが、基本的に食育の観点等、中学校給食を進めていくべきという方向性はあると思うが、実際、中学生の親の意向がどうであるのか、検証や分析も大事であると思う。

(3) 防災行政について (板橋区)

< 小川委員 >

財政的にも人口的にも大きなところであり、先進地であることを感じた。

新しくデジタル化された同報無線が整備されていたが、亀岡も過去に大きな水害が発生しており、瞬時に情報が伝達できるように考えていかなければならない。河川モ

モニターも見せてもらったが、ゲリラ豪雨による被害も増加しているので、モニターの設置も考えていかなければならない。

<山本委員>

ソフト面では、亀岡市でも様々な取り組みがされており、今の市独自の取り組みでよいと感じた。

土のうステーションの説明を受けたが、以前、台風の最中に住民から土のうをもらえないかとの問い合わせがあった。自治防災課では、土のう袋は渡すが土は入れてもらわなければならない、土も学校の砂を入れるということであったが、緊急時には間に合わない。板橋区のような土のうステーションがあれば助かると思った。すぐに本市に取り入れられないかもしれないが、今後の課題であり、いざという時の住民の対応を考えなければならない。

<堤委員>

板橋区では防災施設が充実していたが、それを今すぐ亀岡市に導入するということは財政的に難しい面がある。本市では行政が中心となって、警察署、消防団、自治会等の組織が、人的な部分ではきめ細かく整備されていると考える。

<三上委員>

都市人口集中により、一つの災害で多大な被害を受けることから、しっかりと危機管理がされているように感じた。人口密集地では、土のうは地域の皆さんの防災意識の面からも必要なと思う。また、亀岡市では、自主防災組織はしっかりとしていると感じた。

<木曾委員>

土のう袋の件は、水を含ませれば土のう代わりになるようなものもあると聞いているので、各自治会にあればよいのではないか。土砂災害に対する対応、危険地域の把握、避難指示ができるように、点検の中で行っていくことが大切である。

<奥野委員>

土のうステーションについては必要かと思うが、それを設置する場所の検討が必要かと思う。

主要河川のカメラ設置については、財政的な面もあるが、必要であると感じた。

<小川委員>

ゲリラ豪雨への対応として、簡易な土のう袋のようなものがあれば、各自治会や区等への配備を検討してもらえればと思う。

<田中副委員長>

水を含んだらふくれるものはコーナンなどでも売っているが、そんなに重量がないので、効果には疑問がある。

土のうの件については、一般質問でも取り上げたように思うが、その後、土のう袋だけでなく土も自治会等に置くようになったと思う。やはり体制は整えておくべきであり、土のうも集落ごとに整備していくべきである。

<三上委員>

板橋区の土のう袋等のパンフレットは、亀岡市でも参考にすべきである。

(4) 小規模特認校制度について(飯能市)

(5) 普通教室へのエアコン設置について(飯能市)

<三上委員>

小規模特認校制度の効果があがっているとは言い難いが、学校を開いて、小さくても利点として、よさとしてアピールされていた。まちづくりの根幹となる人づくりに

は、一定のお金と力をかけなければいけない。地域に学校があるよさを住民と確かめ合って、頑張って小さい学校を残そうとされているのには共感した。

エアコンについては、基地の防音でお金がついてくる状況ではあったが、本市も早くつけてあげたいという思いを強くした。また、エアコン設備の点検、維持管理に関して、専門の職員を採用していくべきと感じた。

<木曾委員>

特認校については、亀岡でも複式が始まっている学校もあるので、できるだけ早く導入すべきである。地域の学校を守りたいという住民の意識と、子どもとの関係がマッチしないと学校は守れない。複式になったからすぐ合併ということではなしに、その前段をきっちり取り組むべきである。教育委員会制度も変わるので、提言もしていくべきである。

エアコンについては、川東学園ですべての教室に入り、他の学校との差ができたので、一日でも早く取り組んでいくべきである。整備にあたっては、リース等も含めて、初期投資がかからないように、いろいろな方式・手法を検討すべきである。

<奥野委員>

特認校については、本市でも差し迫った状況の学校もあるので、何らかの対応を考えていかなければならない。町に学校がなくなるのは、町の活力が失われることになるので、参考になった。校区の見直しも行いながら、バランスのとれた空き教室の活用も考えるべきである。エアコンについては統廃合とも関連する部分もあるが、方向性としては、いろいろな手法を用いて整備していくべきである。

<山本委員>

同じ亀岡市内でも、大規模化している学校、小規模化している学校と状況はまちまちであるが、現在、学校規模適正化について、委員会を立ち上げて検討していただいているところである。最初から統廃合ありきでなく、小さい学校のいい所を生かす意味でもこの制度を導入していただければと思う。財政問題等、様々な問題はあるが、とりあえずやれることをやって、その結果を見て考えればよいことである。飯能市では、特認校を平成26年度にも2校増やされており、市として前向きに取り組んでおられるが、亀岡市はあまり前向きではなかった。制度のよい所を生かして亀岡でもためてもらいたい。

<田中副委員長>

小学校にはそれぞれの歴史があることから、飯能市では統廃合が先にあるのではなく、小さな学校をどのように生かしていくのかを基本とされていた。適正化の問題については学校間の協力で一定、解決するのではないかと。小規模校にはきめ細やかな教育ができる利点があり、それを最大限に生かしていくことが大事である。特認校制度についても、中学校ブロックごとに実施を検討すべきである。

<堤委員>

学校のあり方については、いろいろと議論があるところであるが、川東学園については、特殊な経過の中でモデル校として小中一貫校ができたものである。エアコンについては、集中管理方式でなく、個別方式となっているが、今後、コストやメンテナンス面も含めて、考えなければならない。統廃合の問題はそれぞれの地域で状況が違う。小規模校を生かしていくことを考えるべきとの意見もあるが、財政問題も含めて、様々なことを今後の課題として検討していくべきである。

<木曾委員>

飯能市に近所の人の子どもさんがおられて、話を聞いてみると、特認校制度はよいことだが、親として心配なのは通学のことであり、行かせたいが行かせられない状況

があるようである。課題としては通学の問題が大きい。

<山本委員>

制度としてはあるが、通学する子が0人というのは、親の負担が大きいということだと思う。通学は親の負担とされており、やはりそのことがネックとなっているようである。

<木曾委員>

具体的な話として、例えば篠から別院に行くとした場合、乗換等の問題もある。また、朝はよいが帰りが大変であり、子どもが2人いて学年が違う場合は2回迎えに行かなければならないこともある。親としてなかなか決断しにくいという話であった。

<石野委員長>

他に意見等なければ、ただいま出していたいただいた意見等を報告書としてとりまとめさせていただきますので、よろしく願います。

委員会の今後の取り組みについて

<石野委員長>

委員会の月例会での、今後の取り組みについて、意見があれば伺う。

<事務局次長>

先日、環境厚生常任委員会では、子育てに係るNPO法人との意見交換をされているが、そのような形で各種団体との意見交換をされるのも一つであり、また、8月に実施の子ども議会の関係で、子どもたちからの質問事項が届いているので、その中の項目を参考としていただくことも可能である。

<木曾委員>

現在、学校の再編も含めた検討委員会が設置されているのであれば、当該委員会と、今回の行政視察の内容も踏まえ、意見交換させてもらうのはどうか。

<堤委員>

常任委員会で何校か視察をさせてもらい、意見交換を行う場を設けていただきたい。

<石野委員長>

以前には、夏休み前に学校訪問を実施したこともあったが、学校からクレームを受けたように思う。

<奥野委員>

畑野小学校では、現在でもオープンスクールとして広く市民に参観を呼びかけられており、私自身も参加したことがある。参観の後は、校長室で話をさせてもらった。

<木曾委員>

地域の中でそのようなことをされるのはよいが、常任委員会の委員として参加すると難しい面が出てくる。

<石野委員長>

木曾委員から出されたテーマについて、学校規模適正化・再編問題等について、教育委員会と調整することとしたいが、よいか。

<田中副委員長>

時期的には、6月23日の常任委員会の時に、テーマをまとめても間に合うと思うので、それまでに各委員で案を考えておいてもらえばよいのではないかと、

了

<山本委員>

確認だが、小規模特認校について、常任委員会として視察に行かせてもらったが、その内容を、個人的に一般質問で行うことは可能か。以前、個人的に一般質問された時にトラブルがあったように思うが。

<石野委員長>

特に、そのようなことはなかったのではないか。

<田中副委員長>

視察の件については、常任委員会としてやるべきことは常任委員会でやればよいし、議員としても、視察内容を生かしていくことは必要なことである。

4 その他

次回の日程について

<石野委員長>

今回は、6月23日(火)午後1時から常任委員会を開催し、議案審査を行うこととしているので、よろしく願います。

他になければ、これで総務文教常任委員会を閉議する。

14:47 閉議